

「地理空間情報」って知ってますか？

最近、財団法人衛星測位利用推進センターという方の訪問を受け、「地理空間情報の活用に関するアンケート」回答の依頼を受けた。「モバイル交通革命」(東京交通新聞社刊)の著者であり、最近東旅協の有識者懇談会の座長も引き受けられた寺前秀一高崎経済大学教授のご紹介であった。寺前先生はこの財団法人衛星測位利用推進センターにも関係されているらしい。そして非常に印象に残ったのはアンケートのファイルと一緒に綴じられていた「地理空間情報」に関する資料集であった。



「地理空間情報」という耳慣れない言葉が実はタクシー業界、とりわけユビキタスタクシー実現を願望する筆者にとつては、大きな希望の星の近付きを感じさせるものであった。昨年の五月に経済産業省所管で「地理空間情報活用推進基本法」が成立し、二〇一三年を目標に「地理空間情報」を誰もが当たり前に、便利に使える時代を目指すことになる。

では「地理空間情報」とは何か？地理空間情報活用推進研究会報告書によると、地理空間情報は位置情報と地理情報からなり、位置情報は緯度・経度・高度とその位置情報を得た時間情報であり、地理情報は地理的な把握を可能にする場所の属性などの情報(建物や道の名前、住所など) + 関連する情報(建物のレストランの評判など)となっている。

要するに人、物のあらゆる位置や状況が室内、室外を問わず、リアルタイムに掴める時代が来るということである。先の財団法人衛星測位センターの方も、その一環として日本の上空に

清野吉光氏のコラム

団塊 耕 志 録 第3回



清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

新版『モバイル交通革命』を待望!

準天頂衛星を打ち上げ、現在のアメリカのGPSを補完し、十メートルほどの精度を数センチに高めようとしている。室内も様々な方法で位置把握を行い、室外・室内をシームレスに繋ごうとしている。

経済産業省商務情報局が『地理空間情報サービス産業の将来ビジョンについて』(地理空間情報活用推進研究会)という報告書を今年七月に発表し、こうした地理空間情報を活用した「サービス産業」の将来像を描いている。ユビキタス社会のイメージで語られる事の多くは、この地理空間情報がリアルタイムにかつ詳細に把握され、人々のビジネスや生活(そのための移動)に役立つことで実現される。

まさに現在のタクシーもこの地理空間情報に基づいて営業を行っているのであるが、「市場の失敗」といわれるように個々の乗務員、また消費者の地理空間情報の不確かさゆえに、ミスマッチと非効率を抱えているのである。

寺前教授が七年前に『モ

バイル交通革命』で予見した「IT革命によってタクシーやバス、鉄道など交通にもたらされる無限の可能性」は、しかし一方「個性」の情報化の進展」が前提であった。そして今やその前提であった個の情報化は携帯電話の全世代に渡る普及とGPS内蔵の義務化、インターネット化によって実現しつつある。さらに地理空間情報がデジタル化され統合、一元化されていけば、タクシーを含む交通機関の人流に果たす役割もいままごと大きく変わらざるを得ない。

「総合生活移動産業」(クラブ型交通社会)という『モバイル交通革命』で提起されたビジョンを、規制緩和見直しのこの局面で、もう一度深く捉え直してみる事が必要なのではないか。

福島で講演の機会

先日、福島県の若手のタクシー事業者の集まりで、講演をさせて頂く機会を得た。今年の三月に一昨年から十回ほど行ったオリジンタクシーゼミナール(山内



弘隆座長)の内容をまとめて出版したのだが、その本を題材に講演を、という趣旨であった。

オリジンタクシーゼミナールはタクシービジョン小委員会の「総合生活移動産業への転換を目指して」という提言を受けて、「総合生活移動産業創造に向けて」挑戦されているタクシー経営者の方に講師をお願いし、山内座長を中心にゼミ生と議論をするものでした。先の福島の講演ではそうした営みの中で、オリジンの内部で新しいタクシーのキーワードとして絞り出して(?)きた「ユビキタスタクシー業界復活の処方箋」(ユビキタスタクシー研究チーム)としてプレゼンをさせて頂いた。

残念ながら地方の実情を理解できていないこともあ

り、業界同様に我々も東京中心の情報に偏ってしまい、「地域と密着し、結びついたタクシー事業を」と言いながら、説得力に欠けたプレゼンであった事を反省している。

『モバイル交通革命』

その講演会後の懇親会の場で、隣り合わせた昭和タクシーの安齋社長が、筆者

が講演の中で言及した寺前教授の『モバイル交通革命』が、自分のバイブルだとおっしゃった。地方のタクシー事業者の方が厳しい環境におかれているが故に、より先進的だとよく言われるが、驚きと共にそれを実感し、また正直、嬉しかった。『モバイル交通革命』は、まさに来るべきユビキタス社会における新しい交通のあり方を提言したものだと思うが、「近未来」の話であったが故に、なかなか理解して貰えなかったように思う。しかし「タクシー事業を巡る諸問題への対策(答申案)」でも指摘されるタクシー業界の「構造的要因への

対応」のためには『モバイル交通革命』的世界(ユビキタスタクシー)の創造が不可避だと思われる。答申案でも「利用者によるタクシーの選択可能性の向上」のために「ITの活用、リンク制度の充実、乗り場の整備、情報提供の充実等により、可能な限り利用者によりタクシーが選択される環境を整備することが必要」と指摘している。

また歩合制賃金についても、現在のタクシーのビジネスモデルでは大きな改善は望めず、『モバイル交通革命』の言う総合生活移動産業(クラブ型交通社会)の確立なくしては、その解決は不可能と思われる。そして答申案の喫緊の課題である供給過剰の解消についても、ユビキタスタクシー化による全車両の「見える化」なくして実行は担保されないとと思われる。国土交通省・総務省・経済産業省それぞれが、地域社会とユビキタス(地理空間情報?)という事に焦点を当てはじめており、ユビキタスタクシーの実現条件はますます整っ

て来ていると思われる。

新版『モバイル交通革命』を待望!

昨日、オリジン先端交通システム研究室の田口健太郎君と共に、久しぶりに寺前先生にお会いした。そしてミーハーな事に、アマゾンで購入した先生の最近の著作にサインをお願いした。さらにあらためて『モバイル交通革命』の現在の意味を強調し、先生に出版以来七年を経過し、ユビキタス社会とIT技術の進展、タクシー業界の現状を踏まえての「新モバイル交通革命」執筆のお願いをした。全国の意欲あるタクシー事業者のための、新しいバイブルが誕生すること期待したい。(二〇〇八・十二・二十記)



ALCmini II

Alcohol Recording System for Professional



「吹き込む」・「測定する」・「記録する」。
ALC-mini-IIで始めるカシタ3ステップの飲酒点検。

製品貸し出し
キャンペーン

好評発売中!!

コンパクトボディでプリンタ機能搭載!
3ステップの簡便性と高い測定精度を実現!!
スピーディに高精度の飲酒点検が行え、
信頼性の高いアルコール測定記録を残すことができます。

<お申し込み・お問い合わせ>

株式会社システムオリジン

TEL: 03-3834-8352

関東支店営業本部

〒101-0021 東京都千代田区東神田5-3-4-7F

拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海

名古屋・関西・中国・九州

<製造元>

東海電子株式会社

<http://www.tokai-denshi.co.jp>